

●運命の時迫る南海の楽園に 数千人の命と愛をのみ込んで 火の山マウナ・ヌイは爆発した！

ポール・ニューマン
ジャクリーン・ビセット アーウィン・アレン作品 ウィリアム・ホールデン

世界 崩壊の 序曲

警告!! ついに始まった世界最後の日!



IRWIN ALLEN'S PRODUCTION
The Day The World Ended

From Warner Bros. a Warner Communications Company

"THE DAY THE WORLD ENDED" エドワード・アルバート・レッド・バトンス / バーバラ・キャレラ / バレンチーナ・コルテーサ / ペロニカ・ハメル / アレックス・カラス / パージェス・メレティス /
アーネスト・ボークナイン / ジェームス・フランシスカス / ホブ・スヘンクラー

アン・インターナショナル・シネマ・コーポレーション提供 原作 世界最後の日 / ゴードン・トーマス & マックス・モーガン・ウィッツ著 (立東書房刊)
脚本カール・フォアマン&スターリング・シリファント / 監督ジェームス・ゴールドストーン / 製作アーウィン・アレン / 音楽ラロ・シプリン / ワナー・ブラザーズ映画

※解説

《ポセイドン・アドベンチャー》《タワーリング・インフェルノ》の世界的大ヒットで超大作の大御所となった製作者アーウィン・アレンが、すでに《ポセイドン…》を発表した72年にその構想を練っていた《世界崩壊の序曲》が遂に完成した。

《ポセイドン…》で豪華客船を、《タワーリング…》で超高層ビルを、巨大な危機でのみ込んだアレンが、その次に目ざしたものは、今世紀初頭に実際に起こったマルチニック島最大の火山島であり、大噴火によって多数の被害者を出したベレ島の壊滅的被害だった。

アーウィン・アレンが世界の映画界に一時代を画したスペクタクル・パニックの最後の作品に予定したこの《世界崩壊の序曲》は、ポリネシアの火山島カラルー島が舞台となる。この島にある超近代的な観光ホテルに集まった世界中の人々が、刻々と迫り来る歴史上最大の噴火と、それともなう地震、津波の大惨事にまき込まれるというもので、そのストーリー展開は《タワーリング・インフェルノ》に似ている。

アレンの映画作りの根本には、逃げ場のない限られた範囲内からの脱出という設定がある。それは《ポセイドン…》の船であり、《タワーリング…》のビルであり、《世界崩壊…》の島である。この巨大な危機につつまれた有限の世界の中での愛と葛藤、勇気ある決断と行動をヒューマンイズム豊かに讃いあげる。しかもその危機は常に現実にマッチしたものであるところにアーウィン・アレン作品一連の大ヒットの要因がある。

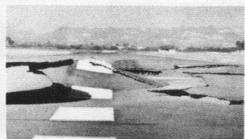
《世界崩壊の序曲》の舞台となっているカラルー島の危機は、火山列島《日本》が目前に抱いている危機でもある。噴火、地震、津波、その巨大な災害が現実のものになった時、私たちが最も必要とされるもの、それが何なのか、映画はワクワクする興奮の中で見せてくれる。

撮影は現実に1977年に大噴火を起こしているハワイのビッグ・アイランドでロケされている。

※ストーリー

南太平洋ポリネシアのカラルー島の名所であるマウナ・ヌイ火山は、ここ数年のところ火山活動をやめていたが、観光客にはあいか

世界崩壊の序曲



★超一流のスタッフが結集

製作：アーウィン・アレン
脚本：《ポセイドン…》《タワーリングのスターリング・シリファント》
《戦場にかける橋》《ナバロンの要塞》の
カール・フォアマン
撮影：《タワーリング・インフェルノ》の
フレッド・コーネカンプ
特殊効果：《ポセイドン・アドベンチャー》の
L.B. アボット
音楽：《ターティ/ハリー》《燃えよドラゴン》の
ラルフ・シフリン
監督：《レーサー》の
ジェームス・ゴールドストーン

THE DAY THE WORLD ENDED



わらず人気があった。国際的なホテル王シェルビー・ギルモア（ウィリアム・ホールデン）は、新しいホテルの状況視察のため、部下の宣伝部長ケイ・カービー（ジャクリーン・ビセット）をともなってカラルー島にやってきた。

ギルモアの共同経営者ボブ・スパングラ（ジェームス・フランシスカス）は、この島の社会と経済を一手に掌握してきた強大な勢力をもつ豪族の子孫で、なかなかの野心家であった。

ケイの恋人で石油採掘に夢を賭ける男ハンク・アンダーソン（ポール・ニューマン）は、カラルー島で油田を掘っていたが、地中の重圧が上昇し、地震計が異常事態を告げているのに気づいた。彼の予想ではこの数日中に大噴火が起こることは間違いのない事実であった。

危険がさし迫る一方、スパングラは島の娘イオラニ（バーバラ・キャレラ）との浮気につつつを抜かしていた。彼の妻ニキ（ペロニカ・ハメル）もイオラニの婚約者でスパングラの異母弟ブライアン（エドワード・アルバート）も、そんなことは知らなかった。

スパングラ自身、火口の研究所の報告で、近く噴火が起こることは知っていたが、それほど大きなものとは考えていなかったのである。だが噴火は起こった。彼の考えよりもはるかに大きな規模で。入江の町は噴火による大津波で全滅、わずかに生き残った人々がホテルに避難して来た。ハンクは噴火口の向きからこのホテルは危険だと主張したが、それでもスパングラはホテルの安全性を強調した。ハンクの案はマウナ・ヌイ火山の反対側へ移動しようというものだった。そのこと自体危険な賭けであることは知っていた。だが、ホテルに残るのは死を待つだけだというハンクの意見に同意したのは、ケイ、ギルモア、横領容疑者フランシス・フェンドリー（レッド・バトンス）、彼を追いつけるニューヨーク市警の刑事トム・コンテ（アーネスト・ボグナイン）、かつては有名なサーカスの綱渡り師だった「ローズ&ルネ」のコンビ（パレンチナ・コルテーサ、バージェス・メレディス）、道案内をかって出たブライアン、そして入江の町から避難してきた数人の人々だけだった。――